

ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト Hiroshima Music Project

オロチ公演は、被爆 80 年公演として実施するものであり、＜平和の舞＞として亡くなられた多くの方々の“鎮魂と再生”を謳うものです。併せて、秋山和慶先生のご功績を讃え追悼の意を表します。

東アジアにおける守護神は、古代より龍やドラゴンや黄蛇や黄龍として神仏習合のかたちで信仰の対象となり、先祖代々私たちの生活の中に位置づいてきました。オロチ＝大蛇も同様に永遠の生きものであり、私たちの守護神として自然と人間の共生を謳い、畏敬の念と慈愛にみちた母なる豊かさを語るものでもありました。それゆえに、首を刎ねられることなく自然に帰っていく「オロチ」を創造することになりました。秋山先生はこのようなオロチの創作舞台を深く受け止めていただき、日本の伝統芸能との対話による現代的で民俗的な様式による西洋のオーケストラサウンドのコラボレーションの意図を過去3回にわたって丹念に掘り下げてくださいました。

このような経緯から、「第13回東アジア音楽祭 2026in ヒロシマ＜ヒロシマからのメッセージ東アジアの友好と創造の祭典＞」において、永遠の生き物である守護神として東アジア地域の＜龍とドラゴンとオロチ＞を取り上げることにしました。本来 2025 年 6 月 1 日、アステールプラザにおいて秋山和慶指揮広島交響楽団と山王神楽団による「オロチ、神楽とオーケストラの協演」でオロチ公演の期待が高まっておりましたが、それにこたえるべく「第13回東アジア音楽祭 2026in ヒロシマ＜ヒロシマからのメッセージ東アジアの友好と創造の祭典＞」において、守護神である龍とドラゴンとオロチを通して、[レクチャーと映像と音楽・神楽でつづるオロチ公演]—平和の舞“鎮魂と再生”(被爆 80 年公演)を企画展開することになりました。併せて、東アジアの守護神である龍とドラゴンとオロチをテーマとして、香港・台湾・韓国・中国の作曲家の現代作品も＜伝統と現代の響奏＞の視点から企画しました。

<コンセプト> Concept

この度の秋山和慶先生のご逝去は、広島のみならず、世界中のまた日本国内の秋山先生を敬愛するみなさまにとって大きな衝撃と驚きで重く受け止められています。

秋山先生は広島交響楽団を世界のオーケストラとして質的な向上に力を注がれ、世界の平和と文化を語る役割を果たしてこられました。その際、「オロチ、神楽とオーケストラの協演」は 2009 年、2010 年、2018 年と過去3回広島で公演していただきました。もはや「オロチ、神楽とオーケストラの協演」は、秋山先生に育てていただいた＜オロチ公演＞であり、多くの広島県民・市民の共有の財産となっております。秋山先生を慕う私たちにとって＜オロチ公演 2025＞の期待が高まる中で、秋山先生のこれまでの＜ご功績を讃え感謝の公演＞となることを切望いたします。

広島から本公演を通じて、平和への思いを国内外に共有し、広げていくために、被爆80年の新しい公演の企画内容をご提案申し上げます。
(一社)ヒロシマ・ミュージック・プロジェクトは、本公演を通し、“多文化社会と共生”の理念のもとに、ヒロシマから東アジアへ、さらに世界へと発信し、音楽を通した連携を深め、マエストロ秋山和慶先生の足跡をたどりつつ広く広島県民・市民をはじめ世界の国々の平和・文化・芸術の振興と発展に寄与し貢献できればと思います。
秋山和慶先生とともに＜ヒロシマ＞から“核兵器廃絶と平和への希求”の願いを込めて“鎮魂と再生と復興”を、ヒロシマから東アジア地域や世界へと発信し祈念申し上げます。

[第13回 東アジア音楽祭/オロチ公演アンサンブル]

○作曲・総監督 伴谷晃二

Composition・Chief Director TOMOTANI, Koji
広島県生まれ。国立音楽大学大学院修了後、パリ・エコール・ノルマル音楽院卒業。エリザベト音楽大学名誉教授。「ISCM-ACL(国際現代音楽祭入選)」「東アジア音楽祭」「平和の舞＜神楽の学校＞」「オロチ、神楽とオーケストラの協演」総監督。2009 年「広島市民賞」受賞。

○作曲 朴守賢 Composition PARK, Soo-Hyun 大阪音楽大学作曲専攻卒業。アジア作曲家連盟「アジア音楽祭」、「済州国際音楽祭」、ISCM「World NewMusic Days」(2009/Sweden, 2014/Poland)、現在、大阪教育大学、大阪音楽大学、エリザベト音楽大学講師。

○ピアノ 吉村麻依子 Piano YOSHIMURA, Maiko
エリザベト音楽大学を総代で卒業。同大学院を優秀な成績で修了、修士号取得。世代を超えて楽しめるコンサート等の企画/プロデュース/演奏活動。「東アジア音楽祭 in ヒロシマ」「ひろしま美術館ミュージアムコンサート」他出演。みゆり音楽院講師、MaiMai Music Company 主宰。

○パーカッション 荻原里香 Percussion OGIHARA, Rika
大阪音楽大学短期大学部及び京都市立芸術大学音楽学部卒業。現在広島ウインドオーケストラ及び岡山フィルハーモニック管弦楽団打楽器奏者。島根大学及びエリザベト音楽大学非常勤講師。

○クラリネット 翁優子 Clarinet OH, Yoko
エリザベト音楽大学卒業、同大学院修了。現在、広島ウインドオーケストラクラリネット奏者。広島クラリネットアンサンブル、アンサンブル・ラ・パスレメンバー。エリザベト音楽大学非常勤講師、広島アーツ楽器講師。

○マリンバ 松田亜希子 Marimba MATSUDA, Akiko
桐朋学園大学音楽学部演奏学科打楽器専攻首席卒業。同大学研究科修了。同大学卒業演奏会出演。安本由美子、安倍圭子、佐野恭一各氏に師事。ソロ活動の他、マリンバ&パーカッションアンサンブルROSSO等のメンバーとしてアンサンブルを行う。広島エフエム放送「クラシカルホリデー・パーソナリティ」。

○パーカッション 伯谷英泰 Percussion HAKUTANI, Hideyasu
エリザベト音楽大学器楽学科卒業。同卒業演奏会に出演。オーケストラ、吹奏楽、室内楽などで、打楽器奏者として演奏活動。現在広島ウインドオーケストラ、HOC ミュージックグループ講師。

○パーカッション 伴谷景子 Percussion TOMOTANI, Keiko
大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業。ドイツ国立カールスルーエ音楽大学修士課程、同大学院アドヴァンストコース修了。たいこ食堂、ヒロシマミュージックプロジェクト、横浜市民広間演奏会各会員。

○サクソフォン 前田悠貴 Saxophone MAEDA, Yuki
エリザベト音楽大学卒業。同大学卒業演奏会、ヤマハ新人演奏会の他様々な新人演奏会に出演。新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ第 12 回において、広島交響楽団と共演。広島ウインドオーケストラ首席コンサートマスター。エリザベト音楽大学非常勤講師。

[プレトーク]映像＜秋山和慶先生とオロチ公演＋東アジアの現代の音楽＞

*ナビゲーター 伴谷晃二×朴守賢(大阪教育大学講師)(予定)
[第1部] 東アジアの現代の音楽:解説と演奏＜東アジアの守護神である龍とドラゴンとオロチ＞作品演奏

陳永華:香港・香港大学名誉教授/鄭翔夫 台湾・高雄師範大学教授/金眞珠 韓国・叔明女子大学教授/朴守賢 日本・大阪教育大学/大阪音楽大学・エリザベト音楽大学講師/伴谷晃二 日本・エリザベト音楽大学名誉教授
*賛助作品予定 呂文慈 台湾・中国文化大学教授/郭元中国・四川音楽学院教授)

○レクチャー 松尾恒一 Lecture MATSUO, Koichi
1963 年、東京生まれ。國學院大學大学院博士課程修了・博士(文学)。現在:国立歴史民俗博物館教授・千葉大学大学院客員教授。國學院大学大学院・上智大学非常勤講師。専攻:日欧文化交流史著書:『倭寇・海商・華僑』(筑摩書房、2025 年)他

○バイオリン I 金原ジラール・ソフィー 絢子 Violin I KANEHARA, Girard Sophy Ayako
ヴェルサイユ地方音楽院を首席で卒業。ブリュッセル王立音楽院学士および修士課程を最優秀にて修了。2011 年ベルギー・アンリ・ヴェータンコンクール第 2 位

○バイオリン II 川辺 梓 Violin II KAWABE, Azusa
福岡県出身。くらしき作陽大学音楽学部卒業。デュオや室内楽、広島交響楽団客演など、広島を拠点に演奏活動を行っており、後進の指導にもあたっている。

○ビオラ 新谷愛子 Viola SHINTANI, Aiko
岡山市出身。大阪音楽大学バイオリン科卒業。広島交響楽団に 27 年間ビオラ奏者として在席。バイオリン、ビオラの指導、フリーランスでオーケストラ活動。日本弦楽指導者協会会員。

○チェロ 伊藤哲次 Viloncello ITOU, Tetsuji
長野県諏訪市出身 国立音楽大学卒業 (故)小野崎純氏に師事。(故)田中千香士、(故)中博昭に室内楽の指導を受ける。1988 年広島交響楽団入団 2024 年定年にて退団。現在フリーランスにて演奏活動。

○津浪神楽団 団長 末田健治
Chief of TSUNAMI Kaguradan Group SUEDA, Kenji
昭和6年河内神社氏子により「津浪神楽団」として設立。石見神楽の流れを汲む山県舞、六調子、旧舞を主体に伝承に努めています。活動は、地元をはじめ広島市等各地の秋祭りの神楽奉納、イベント出演や神楽競演(共演)大会等出演。

*都合により、プログラムが変更になることもございます。ご了承ください。